

編集 後記

3月に入ると日増しに街に春らしさが満ちてくるようです。年度末が近付き、今年度中に片づけようと思っていた数々の仕事の進捗状況を考えると、時間が止まってくれたらと焦る一方、初々しい新入生の姿を思い浮かべると新年度の始まりも楽しみです。今年の桜の開花はほぼ例年並みで、私の住む名古屋では丁度入学式の頃に満開になりそうです。

本号には総説2本と原著2本が掲載されており、テーマは多岐にわたっています。総説の1本目は、戦後わが国が短期間のうちに健康水準を劇的に向上させることに成功した要因について、文献に基づき史実を検討した論文です。2本目は日本人の再生産年齢女性における血中ビタミンD濃度の分布を文献の系統的レビューを通して検討した論文です。原著の2本は共に自記式質問紙調査による研究で、1本目は1歳半児の日頃与えられている食物の硬さと歯の萌出との関連について、2本目は青年期男性の首尾一貫感覚が抑うつ症状に与える影響について検討した論文です。

21世紀に入りはや17年。少子高齢化が進み、2011年から人口の継続的な減少が始まりました。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今後、高齢者人口は増加を続け、2042年にピークとなります。大きな時代の変革期に公衆衛生に従事する者として、最新の制度の理解はもちろん必要ですが、歴史も含め様々な情報に当たり、自分自身の考えを深めることも大切だと改めて感じました。
(小嶋雅代)

次号予告 (第64巻・第4号)

論 壇

大阪の公衆衛生：集団医学の道……………多田羅浩三

原 著

高齢者における所得格差と残存歯数の関連：
JAGES2013 新潟市データ ……………田代敦志，他
身体活動量増加の動機づけに効果的なインセンテ
ィブプログラム：コンジョイント分析
……………松下宗洋，他

公衆衛生活動報告

健康推進員組織の課題解決を目指した研修プログラムの効果……………田口敦子